

焼尻島における海鳥の繁殖記録

長谷部 真¹⁾・伊藤元裕²⁾・四方 恵²⁾・鈴木優也²⁾

¹⁾ 〒 078-4116 北海道苫前郡羽幌町 北海道海鳥センター

²⁾ 〒 041-8611 北海道函館市港町 北海道大学水産科学院

Records of Seabirds Breeding on Yagishiri Island

Makoto HASEBE¹⁾, Motohiro ITO²⁾, Megumi SHIKATA²⁾ and Yuya SUZUKI²⁾

¹⁾Hokkaido Seabird Center, Haboro-cho, Tomamae-gun, Hokkaido, 078-4116 Japan

²⁾Graduate school of Fisheries Sciences, Hokkaido University, Minatomachi, Hakodate-shi, 041-8611 Japan

Abstract. We surveyed seabirds breeding on Yagishiri Island (44°26'N 141°24'E) in June 2010. Fifty nests of Slaty-backed gull *Larus schistisagus* and 13 nests of Japanese cormorant *Phalacrocorax filamentosus* were found. The cormorant nests were found on the south west cliff areas, while 50% of the gull nests were found on a wharf. The gulls and cormorants which increased on the neighbor Teuri Island might have dispersed to Yagishiri Island.

はじめに

焼尻島は北海道の沖合 21km の日本海側に位置する (44° 26' N 141° 24' E, 図 1)。焼尻島から約 3 km の海峡を隔てた西に位置する天売島には西部に高さ 100m を越える崖が連なっており、ここで 8 種類の海鳥 (ウミガラス *Uria aalge*, ケイマフリ *Cephus carbo*, ウトウ *Cerorhinca monocerata*, ウミスズメ *Synthliboramphus antiquus*, ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*, ヒメウ *Phalacrocorax pelagicus*, オ

オセグロカモメ *Larus schistisagus*, ウミネコ *Larus crassirostris*) が繁殖し、海鳥の調査が行われてきた (Osa & Watanuki, 2002)。焼尻島は天売島とは異なり、最高地点でも 100m を越えないならかな島で、崖は一部に限られている。焼尻島ではこれまで海鳥の繁殖記録がなく (Udagawa, 1953; 小山・入江, 1973), 調査もほとんど行われてこなかった (島田, 1984)。近年焼尻島で海鳥が繁殖しているという情報が聞かれるようになった。我々はこれまで個人的な観察にとどまっていた焼尻島における海鳥の繁殖の実態を明らかにするために、焼尻島で海鳥の繁殖状況の調査を行った。

調査方法

2010 年 6 月 5 日の日中に海鳥が繁殖している可能性がある崖地 3 箇所 (北東部・北西部・南西部) と焼尻港の岸壁で、6 月 8 日の日中に南東部の海岸で調査を行った (図 2)。調査は崖の上や道路沿いから双眼鏡を用いて陸上にいる海鳥を観察し、上か

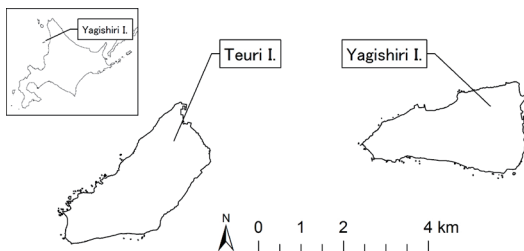


図 1. 焼尻島・天売島位置。

Figure 1. Location of Yagishiri and Teuri Island.

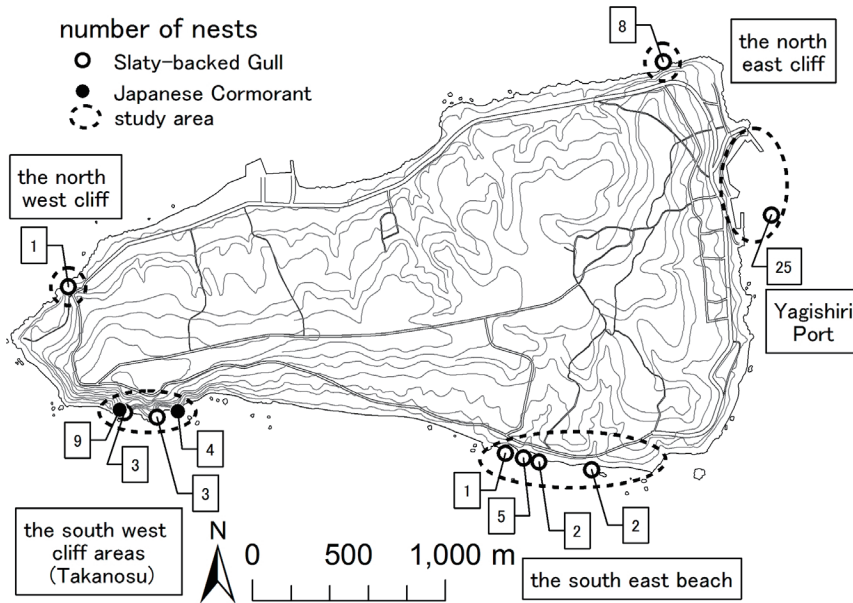


図2. 海鳥調査範囲と繁殖数と位置.

Figure 2. Study area and the distribution and number of seabird nests.

から見えない崖へは可能な限り斜面を下り調査を行った。陸上にいる海鳥を観察した場合、繁殖を確認するため周辺に巣がないか探索した。

調査結果と考察

姿を確認した海鳥はオオセグロカモメとウミウであった。50個のオオセグロカモメの巣と13個のウミウの巣を数えた(図2)。ウミウは「鷹巣」と呼ばれている島の南西部にある高さ60mほどの崖地の2カ所で、数つがいから成る小さなコロニーを形成していた(図3)。鷹巣の崖には陸上から観察できない部分があり、実際の巣数は確認数よりも多い可能性がある。島の北東部崖で10数羽のウミウの上陸を目撃した。ここで巣は確認されなかったが、崖に付着した糞の跡が過去に繁殖した可能性を示唆していた。

オオセグロカモメは崖地、海岸沿いの岩、港の岸壁で巣が確認された(図2)。確認した巣の50%は港の岸壁で(図4)、漁業などの人間の活動への依存が示唆された。実際に、オオセグロカモメは他の地域でも漁港や内陸の人工物で繁殖した記録がある(足立, 2003; 長谷川, 2005)。



図3. 焼尻島のウミウ繁殖地.

Figure 3. Japanese cormorant colony on Yagishiri Island.



図4. 焼尻港岸壁のオオセグロカモメ繁殖地.

Figure 4. Slaty-backed gull colony on a wharf, Yagishiri Port.

オオセグロカモメは、少なくとも2002年から焼尻島のフェリーターミナルの岸壁において繁殖していた(越智大介, 私信)。また、海鳥の繁殖に適した岩の崖地が存在している「鷹巢」周辺には、少なくとも2000年頃からウミウの仲間が、北東部の崖に少なくとも2002年頃からオオセグロカモメが繁殖していることが知られていた(磯野直, 私信)。天売島で近年繁殖数が増加傾向にあったウミウとオオセグロカモメ(天売海鳥研究室, 未発表)が、新たな繁殖地を求めて焼尻島に分散し分布を拡大している可能性が考えられた。

ウミウとオオセグロカモメの天売島における2010年の繁殖状況は非常に悪く、巣数も例年と比べて非常に少なかった(天売海鳥研究室, 未発表)。こうしたことから、本調査において観察された焼尻島におけるウミウとオオセグロカモメの巣も、2010年の繁殖状況の悪化を受け通常の年よりも少なかった可能性がある。

本調査は陸上からの観察に限られたため、鷹巢など見通しの悪い場所では見落としの可能性があり、海上からの調査を組み合わせることにより見落とし

た部分を補い、精度の高い調査が可能となる。今後も、海鳥調査を続けることにより、年ごとの繁殖数の変化や天売島繁殖地との関連が明らかになることが期待される。

参考文献

- 足立英治, 2003. 札幌市街地で繁殖するカモメ. モーリー, (9): 21-22.
- 長谷川理, 2005. オオセグロカモメ. 高木憲太郎編, バードリサーチニュース(2.9): 4-5. バードリサーチ. 東京.
- 小山政弘・入江義智, 1973. 天売島海鳥観察記. 北海道野鳥だより, (16): 7-8.
- Osa, Y. & Y. Watanuki, 2002. Status of seabirds breeding in Hokkaido. *Journal of the Yamashina Institute for Ornithology*, (33): 107-41.
- 島田明英, 1984. 鳥類. 北海道編, 暑寒別・天売・焼尻国定公園指定促進調査(自然環境)報告書(動物編): 7-24. 北海道, 札幌.
- Udagawa, T., 1953. The avifauna of Teuri and Yagishiri Islands, Hokkaido. *Tori*, (13): 68-85.